

ノゼマ症を疑う場合の検査の流れ

中腸を取り出して一部をギムザ染色、一部を PCR に用います

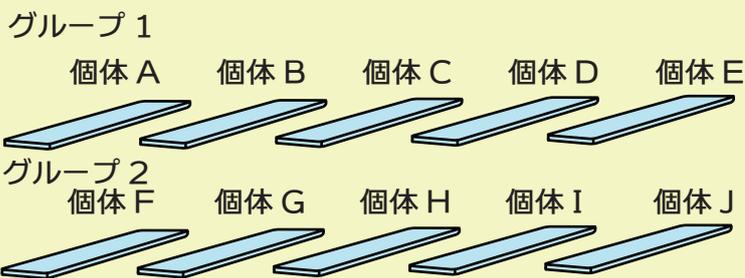
① 中腸を取り出し2つにわけ



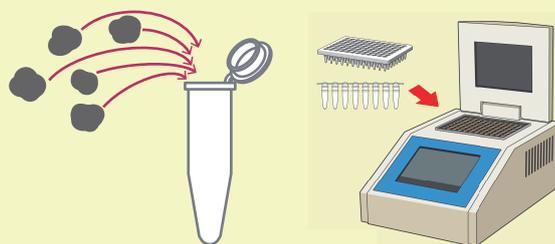
死んだ成虫
症状のある生体

※ 60 検体以上あることが望ましい

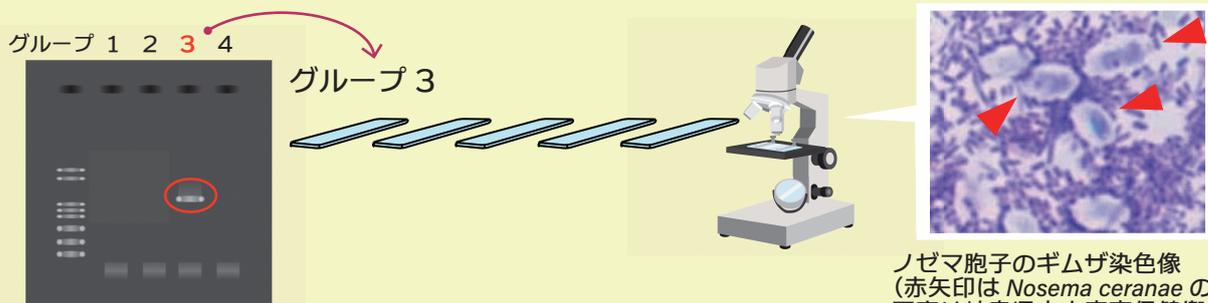
②-1 ギムザ染色スライドを個別に作成



②-2 5 個体分をプールして DNA 抽出・PCR



③ 電気泳動で陽性となったプールのスライドを鏡検

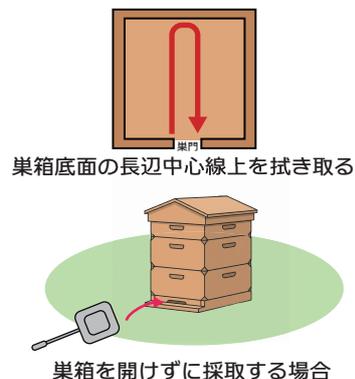


ノゼマ胞子のギムザ染色像
(赤矢印は *Nosema ceranae* の胞子)
写真は岐阜県中央家畜保健衛生所提供

ギムザ染色でノゼマ胞子が検出された場合ノゼマ症と診断する

巣箱内の底面拭き取り検体を採取する場合の検体採取および処理方法

PBS 溶液 10mL を染み込ませた滅菌ガーゼ (7.5cm×10cm 程度) を用いて、巣箱底面の長辺中心線上を一往復拭き取ります。巣箱を開けず巣門から中の床スワブを採取する場合は、棒 (1mL ディスポピペット等) の先にガーゼを取り付けたもので採取します。採取後のガーゼを PBS 溶液 20mL 内に入れ、手で揉んで懸濁した後、1.5mL マイクロチューブに入れて遠心 (20,000g、室温、30 分) と上清除去を繰り返し、20mL が 1mL になるまで濃縮します。その後 DNA 抽出を行います。



巣箱を開けずに採取する場合

注意点

死体は必ず検査対象とする
養蜂場内の汚染の把握には巣箱内の底面の拭き取り検体を検査するのがよい

このリーフレットは JRA 日本中央競馬会の助成により印刷されました